

とやまデザイン・トライアルワークショップ
京都工芸繊維大学×井波彫刻協同組合 「工芸の深化」
井波彫刻のブランドロゴマーク・ロゴタイプ発表について

この度、県総合デザインセンターのコーディネートにより平成 30 年度に実施した、京都工芸繊維大学と井波彫刻協同組合との連携ワークショップの成果である「井波彫刻ロゴマーク・ロゴタイプ」が、『井波彫刻協同組合 創立百周年記念式典』において発表されますので、お知らせします。

※ロゴマーク・ロゴタイプは別紙 1 のとおり

1 日時

令和元年 8 月 3 日（土）午後 5 時から

『井波彫刻協同組合 創立百周年記念式典』において発表

2 場所

いなみ木彫りの里 創遊館 不思議シアター（南砺市北川 730）

3 これまでの経緯

県では、平成 28 年度から県内企業のデザイン人材の確保を支援するため、県内外のデザイン系大学との協力関係を構築し、学生と県内企業のマッチングを行ってきました。

平成 30 年度は当センターのコーディネートにより、井波の彫刻師と京都工芸繊維大学（岡田栄造研究室）でデザインを学ぶ学生 9 名が井波彫刻が抱える課題に共に取り組むワークショップを実施し、井波彫刻を未来につなぐための具体策を検討してきました。

この度、当該ワークショップの成果の 1 つである「井波彫刻ロゴマーク・ロゴタイプ」を『井波彫刻協同組合 創立百周年記念式典』において発表する運びとなったものです。（※H30 のワークショップなどの詳細は別紙 2 のとおり）

ロゴマーク

Inami
JAPAN

コンセプト

職人が着の塊を彫っていくことで、作品に命が吹き込まれる彫刻の本質を、平面の円に線を足していくことで立体である球が視覚的に浮き上がる現象と重ね、ロゴマークにしました。三本の線は、装飾を表す「彫」の字のさんづくりを示し、太さの違いはのみの多様性を表現しています。

京都工芸繊維大学 × 井波彫刻協同組合

学生と職人が、伝統産業界が抱える課題に共に取り組む

南砺市には、江戸時代中期を起源とする伝統工芸「井波彫刻」が今も受け継がれています。約200名の彫刻師が井波の町に工房を構えるという、世界にも例を見ない「木彫のまち」として、2018年に日本遺産に認定されました。今回は、井波の彫刻師と京都工芸繊維大学でデザインを学ぶ9名の学生の皆さんが、井波彫刻のもつ課題に共に取り組みました。井波彫刻を未来につなぐための施策を提案するとともに、学生の皆さんに「井波の手技」と「ものづくりに対する彫刻師の姿勢」などを知っていただき、ものづくりの刺激やヒントにもなることを目指しました。

◎ 日程

- '18.8.23 井波彫刻に関する現地視察
- '18.8.24 課題抽出・アイデアのブラッシュアップ
- '18.8.25 公開プレゼンテーション・ディスカッション
- '18.8.26 - '19.2.23
提案ブラッシュアップ・再提案、試作品製作
- '19.2.24 成果発表会にて発表・展示



◎ 参加者の感想

学生のみさんのコメント

- 時間が限られていて苦労しましたが、井波彫刻の彫刻師の方々と共に意見交換できたので、いいアイデアに繋がったと思います。
- 様々な方の話を聞くことで、一つの技術に絞って全体像を多角的に知ることができ、非常に稀有な体験になりました。
- 井波彫刻に新しい風・あり方を積極的に取り入れようとしているところが驚きでした。



担当教員のコメント

京都にある大学ということもあり、学生たちは伝統工芸を題材にした課題には比較的慣れています。井波彫刻の芸術性の高さには衝撃を受けたようで、その印象を広く伝えたいという想いで今回のプロジェクトに取り組みました。職人の皆さんは各自が作家性を追求しながらも井波彫刻全体の発展のために互いに協力し合っており、その様子からも多くのことを学ぶことができました。/岡田栄造氏（京都工芸繊維大学教授、KYOTO Design Lab ラボラトリー長）

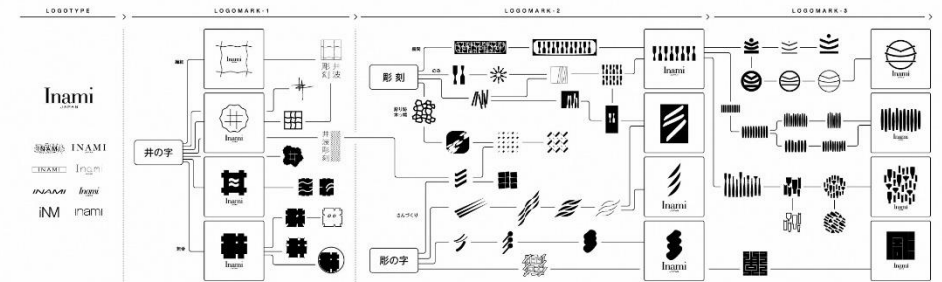


協力団体のコメント

これまで、富裕層やご年配の方を販売ターゲットとしてきましたが、これからは幅広い年齢層に対してPRしていかなければ生き残れないと感じ、若い方のご意見や考えを聞かせて頂きたいと参加しました。これまで考えもしなかった新商品や展示等のアドバイスを沢山頂き、今後の参考になる事が多く非常に有意義な時間でした。/崎田宗孝氏（井波彫刻協同組合 事務局長）

現地視察や彫刻体験、井波彫刻協同組合の皆さんとのディスカッションを経て、学生の皆さんは「井波彫刻のブランディング」「井波彫刻総合会館の展示計画」「井波彫刻のプロダクト」の3つの課題を抽出し、各チームに分かれて提案に取り組みました。3日間のワークショップで発表をした後も、井波の再訪も含め、たびたび組合との意見交換を行いブラッシュアップを重ねました。提案の一部は活用に向け、話し合いが続けられています。

◎ 提案



Branding / 井波彫刻のブランディング

井波彫刻の持つ高い技術力や価値に比べて、全国的な知名度が低いのではないか、あるべき姿で扱われていないのでは、という課題感から、ブランディングによって井波彫刻の価値を高めることを目指しました。上記のダイアグラムは、ブランディングの提案内容を包括するロゴタイプとロゴマークの提案の軌跡を表したものです。現状提案しているロゴタイプ・ロゴマークを用いた法被も試作しました。



Display / 井波彫刻総合会館の展示計画

組合所属の彫刻師の作品を展示販売する「井波彫刻総合会館」。この会館を訪れる人が作品を通して職人の存在を認知し、両者がつながるような場所を目指して、会館内で広い面積を有する常設展示室と和室の展示デザインを作成。「高級感のある展示」「井波彫刻について知る」「井波の職人を知る」の3つのポイントを挙げ、什器や照明の設置、実演コーナーの配置、展示方法等具体的な提案を行いました。



Product / 井波彫刻のプロダクト

伝統的な和菓子の木型から展開した「皿」、力強い表札からインスピレーションを受けた「お弁当」、躍動感のある動物たちの彫刻の存在感を生かした、本格的な鳩が出てくる「鳩時計」、および鯛をかたどった「照明」。そしてシンプルな彫刻と他のプロダクトを組み合わせて付加価値を高めた「フローチとトートバッグ」の5つを試作。井波彫刻の魅力を伝える、今までにないプロダクトを目指しました。